

日本の高校生の間違いやすい英語

英語科 Nadine Alicea Wright
八幡成人

はじめに

どうしても高校生は、日本語につられて間違いを犯してしまいがちです。まず典型的な例を3つほどお目にかけてみましょう。

【誤りその1】 Because

英作文を指導していて一番気になるのが、次の文に見られるような **Because** の使い方です。

× I love SMAP. **Because** they are handsome.

このような文は高校生に見られる典型的な誤りです。そしてこれは中学校で習う Why ~? — Because ~. という応答が引き金となっています。「Because 文」を単独で使えるのは Why ~? と聞かれたときだけです。Because は「~なので」という **接続詞** ですから、

(1) **文**, because **文**

(2) **Because 文**, **文**

という2とおりの使い方しかできません。このことをしっかり押さえておきましょう。

○ I love SMAP, **because** they are handsome.

○ **Because** they are handsome, I love SMAP.

because で原因と結果をつなぐときは、必ず1つの文に収めることが大切なポイント。

ナディーン先生の観察によれば、Because **It** … と大文字にしている例がかなり多いという。確かに、文の途中で大文字にする誤りは最近多くなっている。

【誤りその2】 *go fishing to the river

「彼は川へ魚釣りに行った」を英訳させると、ほとんどの生徒が、× He went fishing *to* the river. と間違えます。日本語につられたために犯す典型的な誤りです。正しくは、○ He went fishing *in* [at] the river. としなければいけません。次の表をごらんください。

日本語訳	英語での表し方	toを用いない理由
川へ魚釣りに行く	go fishing in [at] the river	川で魚釣りをするから
スーパーへ買い物に行く	go shopping at a supermarket	その場所で買い物をするから
蔵王へスキーに行く	go skiing in Zao	その場所でスキーをするから
湖にスケートに行く	go skating on the lake	その場所でスケートをするから

つまり

go **fishing in the river**

in the river は go から続くのではなくて、fishing とワンセットだと考えるのです。

【誤りその3】 「~ために」

次に、下線部分に注意して、以下の入試問題を作文してみてください。

- ①現代のアメリカにおいて、豊かさを十分に享受するためには、競争社会の成功者でなくてはならない。
- ②濃霧のために道路が見えにくくなった。
- ③自国産業のために、外国企業に門戸を閉ざしたままではいけません。

実はこれも、日本語につられることから、受験生がよくひっかかるポイントなのです。日本語の「~ために」には、その意味が3種類あることをしっかり押さえておかなければいけません。次の表でそれを確認しておきましょう。これらはまとめて一気に覚えてしまうことです。

■ 3 とおりの意味のある「～ために」

	用法	「～ために」に相当する英語表現
た め に	目的 ～するために	in order to V, so as to V, so that ... may [can] for the purpose of V-ing, with a view to V-ing
	理由 病気などのために	because of..., on account of..., owing to..., due to...
	利益 人などのために	for..., for the sake of..., in honor of..., in the interest of..., in behalf of...

この点に注意すると、次のような正解が得られるでしょう。

① Now in America [In present-day America], we have to succeed in a competitive society **in order to** enjoy its riches.

② **Because of** the thick fog, it was difficult for me to see the road.

③ Don't keep the door closed to foreign countries [enterprises] **for the sake of** domestic industries.

このような日本語につられたり、ついやってしまいがちな誤りをしっかり肝に銘じて、押さえておいてください。入試でもよく出題者が狙う重要なポイントです。

松江北高校に赴任したナディーン・ライト先生と5年間、一緒に授業をしたり、英文添削をしてもらったり、談話する中で、日本の高校生の多くが間違えやすい表現を集めて出来上がったのが、このリストです。そのほとんどが日本語による干渉の結果生じたものであることは興味深いところです。いずれもちょっとだけ注意を喚起することで十分に防げるミスです。大きい活字のものは、中でも特に注意を要するものです。生徒がどんな所につまづくのか、若い先生方には特に参考になる資料に仕上がりました。訳やまとめ・解説は八幡が担当しました。



高校生が陥りやすい誤り表現リスト

<A>

a (n) × There is book on the desk. 机の上に本がある

○ There is a book on the desk.

このように無冠詞で英語を書く高校生がたくさんいます。冠詞という概念が日本語にはないためにどうしてもうっかりするようです。一つ、二つと「数えられる名詞」(＝可算名詞)には必ず「パンツ」をはかせてやりましょう。パンツには次の3種類があります。「ノーパン」はいけません。「可算名詞」には絶えずそのことを意識することが大切です。

{ a . . . 不特定
the . . . 特定
～s . . . 2以上

abroad × go to abroad, × travel in abroad, × study in abroad とは言わない。

abroadは「外国へ」という意味の副詞なので前置詞は不要。○ go abroad が正しい。日本語につられた誤り。

across × My school is across the park. 私の学校は公園の向かい側にある。

○ My school is across from the park.

acrossの使い方は高校生にとって難しい。

accustomed × be accustomed to sit up late は誤りで、○ be accustomed to sitting up

と言う。to は前置詞であるから V-ing と動名詞を伴う。正誤問題に頻出。

□ 副詞 (adverb) の位置

△ I study hard *every day at school*.

○ I study hard *at school every day*.

副詞の並べ順に注意。「所ジョージ」(場所→状態→時) と押さえておくとよい。

□ advice/ advise

× I always ask my parents for *advise*.

○ I always ask my parents for *advice*.

advice(助言)は名詞。**advise**(助言する)は動詞。きちんと区別すること。

□ almost

× *Almost* boys can play baseball. (ほとんどの少年が野球ができる)、
× *Almost* my friends are women. (私の友達はほとんど女性だ) は誤りで ○ *Almost all* the boys can play baseball. ○ **Most of** my friends are women. が正しい。**almost** (ほとんど) は副詞なので、almost boys のように直接名詞につけることはできない。

【almostの用法】

○ almost all (the) boys

○ almost all of the boys

× almost boys

【mostの用法】

○ most boys

○ most of the boys

× most the boys

× the most boys

□ any

× *Anybody* didn't call me up. 誰も私に電話してきませんでした。

○ *Nobody* called me up.

Anybody ... not... という語順は誤りです。否定語は前に出して、not anybody (=nobody) としてしか使えません。Anything...not... も同様に誤りです。

× *Anything* in this restaurant *isn't* delicious.

このレストランの料理はどれ一つとしておいしくない。

○ *Nothing* in this restaurant is delicious.

□ appreciate

× I would *appreciate* if you could come tomorrow.

○ I would *appreciate it* if you could come.

明日いらしてくださいと本当にありがたいのですが。

「感謝する」という意味の **appreciate** は他動詞。if 以下のことに感謝する場合には目的語の it が必要。

□ because

× I failed the exam. *Because* I didn't study.

○ I failed the exam, *because* I didn't study.

because は接続詞なので、それだけで1つの文として用いることはできない。Why ~? の疑問文に対する答えの時だけは、それだけで文として用いることができるので、これの影響から起こる間違い。まず主節を書いた後に、理由を書くようにするとよい。

× I love Takeru Satou *so* he is popular.

□ before

before を「～しないうちに」と訳した方がいい場合があります。

Let's go shopping *before* it starts to rain.

雨が降り出さないうちに買い物に行こう。←降り出す前に

Let's buy sugar *before* it is sold out.

砂糖が売り切れないうちに買っておこう。←売り切れる前に

□ believe/ believe in

× I *believe* miracles. 私は奇跡 (の存在) を信じます。

○ I *believe in* miracles.

「～の存在を信じる」という意味のときは **believe** ではなく **believe in** を使う。

□ belong

× Yoshiko *is belonging* to the ESS club.

よし子は ESS クラブに入っています。

日本語の「～います」につられてつい進行形にしてしまいがち。「状態」を表す単語は進行形にはならない。正しくは○ *Yoshiko belongs to the ESS club.*と現在形で使う。「所有」(**have, own**)、「知覚」(**see, hear, taste**)、「好き嫌い」(**like, prefer, hate**)なども誤って進行形にしやすいため注意。「しょちすき」(所・知・好)と覚えておきたい。

□ **beside/ besides** This car is very old. × *Beside*, it breaks down easily. (この車はとても古い。おまけにすぐ故障する)は誤りで、**besides**を使う。**beside**(～のそばに)と**besides**(おまけに)は形がよく似ているので、混同がよく見られる。

□ **borrow** × We can *borrow* a hall by the hour. (ホールを時間決めて借りられる)
○ We can *rent* a hall by the hour.
borrowの意味をしっかりと押さえておきましょう。

■同じ「借りる」でも.....

borrow	(無料で借りる)
use	(その場で使うものを借りる)
rent	(有料で借りる)
lease	(不動産などを有料で借りる)

次も誤り。

× May I *borrow* your bathroom? トイレをお借りできますか。

○ May I *use* your bathroom?

最近では、携帯電話の普及により **borrow** も可能になってきた。

May I *use* your phone?

May I *borrow* your phone?

□ **both** × My *both* sister and brother (私の兄も妹も両方とも)は誤りで、○ *Both* my sister and brother が正しい。

□ **bowl** × My sister sometimes *plays bowling*. (妹は時々ボーリングをします)
正しくは

○ My sister sometimes *goes bowling*./ My sister sometimes *bowls*.

play は球技に用いる。

□ **businessman** 日本語の「ビジネスマン」につられて一般の会社員や事務員を連想しがちだが、経営者や管理職のイメージの強い語。

□ but

× I earn a good salary. *But* I have to work long hours.

○ I earn a good salary, *but* I have to work long hours.

私は高い給料をもらっているが、長時間働かなければならない。

But は通常文頭に置かれることはない。日本語の「しかし」の影響。



□ cards

× Would you like to play *trump*?

○ Would you like to play *cards*?

日本語の「トランプ」は英語では **cards** と言う。**trump** は「切り札」のこと。「トランプを切る」は *shuffle the deck* と言う。

□ **challenge** × I *challenged* the entrance examination of Tokyo University. (東大の入試にチャレンジした)は誤りで、○ I tried to pass the entrance examination of Tokyo University. と *try* を使う。英語の **challenge** は「人に試合や戦いを挑む」「人にとっても困難なことを行うよう強く要求する」という意味で、日本語とは意味が異なるのです。

○ I took the *challenge* of sitting the entrance examination for Tokyo University.

□ **change** × We changed *our train* at Shinjuku Station. (新宿で電車を乗り換えた)複数の電車が関係しているから複数形が必要。

多くいます。正しい英語では、○ I had my hair cut.と言います。注意してください。

<D>

□ **decide** × I *don't decide* where to go yet. (まだどこへ行くか決めていない)
「決めていない」という日本語につられて現在形を使う高校生が非常に多い。「決めていないまま現在に至っている」のだから、現在完了形を使わねばならない。

○ I *haven't decided* where to go yet.

□ **department store** 日本語につられてつい× depart, × department と言いがちだが、正しくは department store。

□ **direction** 日本語の「～の方向に」につられて、× *to the direction of* ～と言いたくなるが、○ *in the direction of* ～が正しい。センター試験にも出題された。

□ **discuss** × We *discussed about*[on] the plan. (その計画について議論した) は日本語につられた誤りで、他動詞として *discussed the plan* が正しい。非常に多い誤り。このような他動詞に前置詞をつける誤りでは× **approach to**, × **reach to**, × **mention about**, × **resemble to**, × **enter into**, × **obey to**, × **answer to**, × **leave from** などがよくある間違い。

□ **downtown** I'm going *downtown*. (×下町へ行く) **downtown** は「下町」ではなく「中心街、繁華街」を指す。また× *go to downtown*, × *live in downtown* とは言わない。副詞なので前置詞は不要。

□ **during** × He wrote a book *during* he was in prison. (彼は刑務所にいる間に本を書いた) は誤り。**during** は前置詞なので、主語＋動詞は取らない。○ He wrote a book *while* he was in prison. と接続詞の **while** を用いる。

また **for** と **during** の使い分けも高校生には難しいようです。これはこう覚えておきましょう。

for + **不特定の期間** He stayed at his uncle's *for two months*.

during + **特定の期間** He stayed at his uncle's *during the summer vacation*.

つまり、for は "How long?" に対して答える場合に用い、during は "When?" に対して答える場合に用いるのです。

<E>

□ **each** × *Each the boys has his own computer*. (その少年たちはみんな自分のコンピューターを持っている) は誤りで、○ *Each one of the boys has his own computer*. が正しい。

○ *Each of the boys has his own computer*.

□ **each other** × Let's talk *each other* about this. (このことについてお互いに話し合おう)

each other は代名詞であるから to を入れる必要がある。

○ Let's talk *to each other* about this.

□ **easy** × I am *easy* to read this book. (この本は読むのが簡単だ) は誤りで、It is easy to read this book./ This book is easy to read. が正しい。このような形容詞は人を主語にしない。

【参考】 人を主語にできない主な形容詞は、次のように覚えておくとよいでしょう。

「過去問が難しかろうが易しかろうが、安全だと**言**われようが、受かることが可能か、不可能かはそ

difficult easy safe possible impossible

のときになってみないとわからないものだ。だが、油断だけは絶対に危険な行為である。」

dangerous

□ **ending** 英語では× happy end とは言わず、The movie had a *happy ending*. (その映画はハッピーエンドで終わった) と言う。

□ **engagement** × an engage ring は誤りで、○ an engagement ring が正しい。

□ **England** 平気で「英国」と訳す高校生が多い。中学校以来の無意識の習慣のなせる技であろう。**England** は「英国」の中の一部に過ぎない。「イングランド」と訳す習慣をつけたいもの。

□ **enjoy** × I enjoyed very much at the party. (そのパーティではとても楽しかった) は誤り。**enjoy** は他動詞なので、常に目的語が必要。○ I enjoyed myself at the party./ I enjoyed the party.

□ **every day**

× I take my dog for a walk *everyday*.

○ I take my dog for a walk *every day*.

私は毎日犬を散歩に連れていく。

everyday と 1 語にすると形容詞（「毎日の」）になる。副詞の表現は **every day** と 2 語。

□ **exciting** × I'm *exciting*. (興奮している) 人の感情を表すには、excited, bored, moved, tired, interested, surprised, worried などの過去分詞を使う。「物」が主語の場合には exciting となる。

○ I'm *excited*.

○ The game was *exciting*.

□ **explain** × I explained him the process. (その過程を彼に説明した) は誤りで、「人」の前に to が必要。○ I explained the process to him. 目的語の部分が長いときには、「to 人」を前に出すこともある。

He explained to me how to make the machine.

♠ 「V + 事柄 + to + 人」の形を取る動詞は次のように覚えておこう。

「**SAME (サメ) は来 (co) ないとプロ (pro) が言う**」

S : suggest A : admit M : mention E : express co : confess pro : propose

<F>

□ **fall** × They are going to get married *in this fall*. と前置詞をつける高校生が非常に多い。in は不要で、They are going to get married this fall. (彼らはこの秋に結婚する) が正しい。

□ **farmer** 「農夫」と訳してお百姓さんのイメージで捉えている生徒が多いが、たくさんの使用人を使う「農場主」が近い。

□ **few**

× Few students didn't answer the question.

その問題に答えた生徒はほとんどいなかった。

○ Few students answered the question.

few は「ほとんど～ない」という否定の意味も含んでいるので、否定の not をつける必要はないのである。a few (2, 3 の) と few (ほとんど～ない) の 2 つを混同しないことも重要なポイントである。不可算名詞に用いる a little (少しの) と little (ほとんど～ない) も同様に注意が必要。

□ **find** × I can't *find out* my suitcase.

○ I can't *find* my suitcase.

find は「(失ったもの、捜しているものを) 見つける」、**find out** は「(未知の事実などを調査などによって) 探り出す」という意味である。

□ **fog** × The *deep fog* made it impossible for us to see anything.

日本語の「深い霧」につられた誤りで、正しくは dense [thick, heavy] fog が正しい。

□ **foot** △ He goes to school *on foot*. (彼は学校へ歩いて行く) と不自然な英語に訳す

生徒が非常に多い。これは動詞 walk を使って、○ He walks to school. と表すのが普通。

□ **foreigner** 「外国人」と辞書に載っているために安易に使いがちだが、「よそ者」という悪い意味合いを持つ差別的で失礼な響きの語なので、American, English, French などのように国籍を言うのが普通。

□ **friend** △ my friend (私の友達) は「私のその友達」「私の一人しかいない友達」という意味で、○ a friend of mine が普通の表現である。高校生の盲点でもある。単に友達の1人のつもりで my friend という表現を使うと誤解される可能性が高い。

<G>

□ **gas** 日本語につられつい× gasoline stand と言ってしまいがち。gas station が正しい。

□ **go** × go shopping to the department store (デパートへ買い物に行く), × go fishing to the river (川へ魚釣りに行く), × go skiing to Zao (蔵王へスキーに行く) は全て日本語の「へ」につられた誤り。「デパートで買い物をする」から go shopping at the department store、「川で魚釣りをする」から go fishing at [in] the river、「蔵王でスキーをする」から go skiing in Zao がそれぞれ正しい。

□ **guest** 日本語では「客」と一語で済ますところを、英語では種類に応じて使い分けている。センター試験でも出題された。

客	audience	「(劇場などの) 聴衆、観客」
	guest	「宿泊客、招待客」
	client	「(弁護士などの) 依頼客」
	customer	「(お店の) 客」
	spectator	「(スポーツの) 観客」
	passenger	「(乗り物の) 乗客」
	visitor	「訪問客」
	tourist	「旅行客」

<H>

□ **had better** had better = 「～したほうがよい」 should = 「～すべきだ」と習うものだから、つい軽い気持ちで× You had better go home at once. (すぐ家に帰ったほうがよい) と言ってしまいがちだが、これは親から子供、先生から生徒に言うような場合に用いる強制的で命令口調の言い方である。ときには「そうしないとひどいことになる」といった強い警告にもなる表現である。このような場合には should を使いたい。また had better の否定形は× had not better ではなく、○ had better not であることも間違えやすい。

□ **hard** × You should study more harder. もっと一生懸命勉強すべきです。
○ You should study harder.
more の後ろに -er を続けることはない。harder が比較級。

□ **hardly** × It rained hardly yesterday. (昨日は激しく雨が降った) hardly は「ほとんど～ない」という意味の副詞で、hard (激しく、一生懸命) と混同しないこと。
○ It rained hard yesterday.

□ **have been** × I have been to China two years ago.
× I have been to China two years.
○ I went to China two years ago.

□ **have to** やむを得ない事情で「～しなければならない」は have to ～がふさわしい。must = have to と機械的に中学校で教えられるからこういうニュアンスが見逃されてしまう。

□ **help** 日本語につられて「彼の仕事を手伝う」を× *help his work* とやってしまいがち。正しくは○ *help him with his work*。

× *I helped my brother's homework.* (私は弟の宿題を手伝ってやった)

○ *I helped my brother with his homework.*

同様に「彼の成功を祝う」は× *congratulate his success* ではなく、○ *congratulate him on* [× *for*] *his success*。

□ **here** × *I came to here by bicycle.*

○ *I came here by bicycle.*

副詞 *here, there, somewhere, anywhere, nowhere* の前には、前置詞の *to* や *at* や *in* を用いない。

□ **Hey** 人を呼ぶときに "Hey!" と声をかけるのは相手に対して失礼で、反感を抱かれかねない。Excuse me. と言う。

□ **high** × *He is 160 cm high.* ○ *He is 160 cm tall.*

人には *high* は用いない。 *tall* が正しい。山なら OK。

□ **hobby** △ *What is your hobby?* (あなたの趣味は何ですか) 趣味のうちのある種のものが *hobby* であり、「人が長年にわたって時間をかけ、また費用もかけ楽しみながら励んだ結果習得したものごと」のことである。つまり特別な技術や知識を使うことである。したがって、○ *What are your interests?* などと言うべきである。

□ **home** × *She went to home.* (彼女は家に帰った) は日本語の「家に」につられた誤りで、*home* は副詞だから前置詞は不要。○ *She went home.*

□ **how** × *How much do you drink coffee every morning?*
あなたは毎朝どのくらいコーヒーを飲みますか。

○ *How much coffee do you drink every morning?*

× *How many do you have friends?* あなたは友達を何人持っていますか

○ *How many friends do you have?*

「**How much** + 不可算名詞～？」と「**How many** + 可算名詞～？」は基本中の基本です。

× *How do you call this flower in English?*

○ *What do you call this flower in English?*

この花を英語でどう言いますか。

「どう言いますか」につられて *how* を使いがち。

□ **however**

× *However he tried hard, he couldn't force the door open.*

○ *However hard he tried, he couldn't force the door open.*

彼はどんなに頑張っても、ドアをこじ開けることができなかった

この語順に注意。高校生に非常に多い誤り。 *How old are you?* を× *How are you old?* としないのと同様。

<|>

□ **impossible** × *I am impossible to do this job.* (この仕事をすることは不可能だ) と人を主語にしていうことはできず、*It is impossible for me to do this job.* とする。ただし、*Our boss is impossible to please.* (我々の上司を満足させるのは無理だ) は OK です。

□ **in** 「1週間」を *for a week* とする場合と、*in a week* とする場合の区別が高校生にはピンとこないようです。「1週間」という言葉が、**期間** (1週間の間) を表していたら *for* を使い、**時の経過** (1週間たったら) を表していれば *in* を使うのです。

He stayed with us *for a week*. (彼は私の家に1週間泊まった)

He will be back *in a week*. (彼は1週間たったら帰ってきます)

また次のような間違いもよく見られる。

× I'll go to Hokkaido *in* this summer.

○ I'll go to Hokkaido this summer.

これは日本語で「今年の夏は」とか「今年の夏に」と助詞を入れて表現するので、それを英語に直訳したために起こる誤りである。

× The TV program will start *after* fifteen minutes.

○ The TV program will start *in* fifteen minutes.

そのテレビ番組はあと15分で始まります。

今始まることが終了する期間を意味するには *in* を用いる。ある時や出来事に続く期間に何かが起こることを言うには *after* を用いる。

□ **in[to]** the west of ~

○ Osaka is *in* the west of Japan. (大阪は日本の西部にある)

× Osaka is *to* the west of Japan.

cf. Kobe is *to* the west of Osaka. (神戸は大阪の西方にある)

大阪は日本に含まれているので *in* を、神戸は大阪の外部にあるので *to* になる。

□ **information**

× I got an interesting *information* about Mr. Smith.

○ I got an interesting *piece of information* about Mr. Smith.

「不可算名詞」なので数えるときには、*a piece of* を使う。

□ **it** × I bought a pen, but I lost *one*. (ペンを買ったが、なくしてしまった) は誤り。この場合は特定のペンだから *it* でなくてはならない。*one* は不特定の1本。

○ I bought a pen, but I lost *it*.

つまりこういうことである。

one = <a + 名詞>

it = <the + 名詞>

I don't have a pen. Would you lend me **one**? <one = a pen>

ペンを持っていないんだ。貸してくれないか。

This is a gift for you. I chose **it**. <it = the gift>

これは君へのプレゼントだ。僕が選んだんですよ。

□ **its/it's** You see a large house over there? × *It's* owner is Mr. White.

You see a large house over there? ○ *Its* owner is Mr. White.

its (その) と **it's**(=it is) を混同しないこと。高校生に非常に多い誤りである。

<J>

□ **Japanese** △ *Japanese* work very hard. (日本人はよく働く) これも高校生によく見られる英語で、「日本人」(複数) は普通 *the Japanese* または *Japanese people* と言う。

○ *Japanese people* work very hard./ *The Japanese* work very hard.

□ **junior** × I am *junior than* him by four years. (私は彼より4歳年下だ) は日本語につられた誤りで、*than* ではなくて *to* を用いる。**senior, superior, inferior** も同様。

□ **just now** × The train has arrived here *just now*.

汽車はたった今ここに着いたところだ

○ The train arrived here *just now*.

just now は「過去」を表す語句であることに注意しましょう。したがって現在完了とは使えないのです。

<K>

□ **keep** × I *kept* him *waited*. (彼を待たせておいた) は「彼が待たされた」と考えて *waited*

としたら間違い。「彼が待つ」という状態を **keep** したと考えなければいけない。

○ I *kept him waiting*.

<L>

□ **last/ next** × in *last* summer この前の夏に
 × on *next* Sunday 次の日曜日に

前置詞をつけてはいけない。

□ **leave/ leave for**

leave Tokyo 東京を出発する

leave for Tokyo 東京へ向けて出発する

この区別がきちんとできない高校生が多い。

□ **lend** × Can I *lend* your dictionary?
 ○ Can I *borrow* your dictionary?
 辞書をお借りできますか。

lend(貸す)と **borrow**(借りる)はよく似ているので混同しがち。**lend** はその人が一定期間それを持ったり使ったりするのを許可する。**borrow** は一定期間それを持ったり、使ったりする、という意味です。

□ **lie** × He *lied* [*laid*] on the grass. 彼は草の上に横たわった。
 ○ He *lay* on the grass.

自動詞 **lie**(横たわる)は *lie — lay — lain* と活用変化し、他動詞 **lay**(横たえる)は *lay — laid — laid* と活用する。ややこしいことに **lie**(嘘をつく)は *lie — lied — lied* と規則変化である。これは日本人だけでなく英米人も混同しやすいポイントである。自動詞 **rise**(上がる) — *rose — risen*、他動詞 **raise**(上げる) — *raised — raised* にも注意が必要。センター試験でも頻出事項です。

□ **live** × I *am living* in Tokyo. 私は東京に住んでいる。
 ○ I *live* in Tokyo.

「住んでいる」という日本語に引きずられて、進行形にしてしまいがち。これでは一時的に住んでいる、という感じ。すぐに住居を変える予定でもない限り現在形を使う。

□ **look** × She *looks like* happy. (彼女は楽しそう) **look like** の **like** は前置詞であるから形容詞はつけられない。She *looks like* an honest woman. (彼女は正直者といった様子だ) ならよい。
 ○ She *looks* happy.

また副詞をつけて × She *looks happily*. も誤り。副詞は補語にはなれないのです。

□ **look forward to** × I'm *looking forward to go* to the party.
 パーティに行くのを楽しみにしている。
 ○ I'm *looking forward to going* to the party.

この **to** は不定詞ではなく前置詞であるから、後には必ず動名詞が続くのである。**be used [accustomed] to V-ing, What do you say to V-ing** も同様である。

<M>

□ **manager** × I'm a *manager* of the baseball team. 私は野球チームのマネージャーだ。
 ○ I'm an *assistant* of the baseball team.

manager はチームの監督。部活のマネージャーは **assistant** か **helper**。

□ **mansion** × I live in a *mansion*. (私はマンションに住んでいる)
英語では **mansion** は「大豪邸」を言う。
 ○ I live in an *apartment*.

□ **as many as**

- × I have CDs three times *as many as* my sister.
 - I have three times *as many* CDs *as* my sister.
- 私は妹の3倍CDを持っている。

□ **marry**

× I *married with* him. (彼と結婚した) は誤りで、*marry* や *get married* の後では *with* を使わない。目的語がある場合には *marry/ get married to*、目的語がない場合は *get married* を用いる。

- I *married* him./ I *got married to* him.
- I want to *get married* before I'm 30. (30歳になる前に結婚したい)

□ **master**

「身につける」にやたらと *master* を使いたがる高校生が多い。物事はそう簡単に *master* できるものではない。learn ぐらいで十分である。

- I would like to *learn* English.

□ **Don't mind**

- × *Don't mind.* 気にするな。
- *Never mind./ Don't worry.*

日本語の「ドンマイ」につられた誤り。

□ **miss/mistake**

- × I *mistook!*/ I *made a miss.* 間違えた。

- I *made a mistake.*

「ミスをする」は和製英語。× He *missed* again. も He *made a mistake* again. としなければならぬ。

□ **most**

× *Most of* students are not rich. (ほとんどの学生は金持ちではない) 「ほとんどの～」と言いたいとき、*the, this, that, these, those*, 代名詞、所有代名詞の前では *most of...* が使われる。しかし、これらがなくは *of* なしで *most* だけを使う。

- *Most* students are not rich.
- × This is *the most tallest* building in the world.
- This is *the tallest* building in the world.

最上級のつもりで、*the most* と *-est* を一緒に使ってしまう人が多く見られる。1音節の形容詞には *-er, -est*、2音節の形容詞には *more ~, most ~* を使うのが原則。

<N>

□ **narrow**

- × My room is *narrow.* 私の部屋は狭い。

- My room is *small.*

narrow と *wide* は、細長い物の幅について説明・描写する言葉。部屋には *small/ big* を使う。

× a *narrow* room, × a *narrow* country はいずれも誤り。

□ **near**

- × My son's school is *near from* our house. 息子の学校はうちから近い。

日本語につられてしまうために生じた誤り。

- My son's school is *near* our house.

また副詞 *nearly* (ほとんど～する) と混同しないこと。

She was *nearly* run over by a truck.

すんでのところトラックにひかれるところだった。

- × I went to a *near* restaurant.

- I went to a restaurant *nearby* [a *nearby* restaurant].

「近くの」は *near* ではなくて *nearby* を使う。

□ **necessary**

- × You are *necessary* to do your best. 君は最善を尽くす必要がある。

- It is *necessary* for you to do your best.

necessary は人を主語にすることができません。

□ **news**

- × That's a good *news.* (それはいい知らせだ)

- That's good *news.*

news は不可算名詞だから冠詞はつかない。

□ **next** × I'm going to America *on next* Sunday. (来週の日曜日にアメリカにいくつもりだ)
× I was very busy *in last* month. (先月はとても忙しかった)
時を表す名詞の前に、this, next, last, that, every があるときには、その前に on, in, at はつけない。

- I'm going to America *next* Sunday.
- I was very busy *last* month.

□ **No** *Don't you like dogs?* (犬が好きじゃないんですか) という否定疑問文に、
× Yes. (ええ嫌いです) × No. (いいえ好きです) と日本語につられて答えてしまうのは日本人高校生特有の誤りである。質問が肯定文でも否定文でも、答えの内容が肯定なら Yes.と言います。否定なら No.と答えます。つまり、*Do you like dogs?* と聞かれようが、*Don't you like dogs?* と聞かれようが、*I don't like dogs.* という状況であれば必ず No. (はい、嫌いです) と答えるのです。その際、首を縦に振らないように注意してください。

□ **not** × I think it will *not* rain tomorrow. (明日は雨は降らないと思う) 否定語のような重要な語はなるべく文の初めに表現するという英語の傾向に即して次のようにする。
○ I *don't* think it will rain tomorrow.

<O>

□ **old** × a fourteen-years-old girl (14歳の女の子) は誤りで、○ a fourteen-year-old girl と言わねばなりません。形容詞の働きをしているので s はつかないのです。

□ **on** × It is held *on* July.
○ It was held *on* Wednesday.
on は日、曜日に用いる。

□ **one** × He is *one of* my best friend. (彼は親友の一人だ) は誤りで、one of の後には常に複数形の名詞を続けること。○ He is *one of* my best friends. が正しい。これも高校生に頻繁に見られる誤り。

□ one more

- × *One more* please. もう一度おっしゃってください。
- △ *Once more* please.
- *Sorry?! Pardon (me)?! Sorry? Could you say that again please?*

英語検定の面接などで、質問を繰り返してもらうためにこういう間違いを言う生徒が多い。気をつけたい。

□ **order** × He *ordered* two books to New York. (彼はニューヨークに本を2冊注文した) は日本語につられた誤りで、「ニューヨークから本を注文した」のであるから ○ He *ordered* two books from New York. でなければならない。

□ **overseas** × He has been *to overseas* only once. (彼は海外へ一度だけ出かけたことがある) 日本語の「海外へ」につられて to をいれてしまいがち。○ He has been *overseas* [*abroad*] only once.

<P>

□ **people** 「人々」は people であって、a はつけないし、複数形にもしません。しかし、a people となると「国民、民族」という意味で、peoples はその意味の複数形です。
The Chinese are *a diligent people*. 中国人は勤勉な国民です。
This nation consists of *two peoples*.
この国は2つの民族から成り立っている。

□ **pick up**

× Can you *pick up* me at the station?

○ Can you *pick me up* at the station?

駅で車でひろってくれますか。

動詞の目的語が代名詞の場合は、その代名詞は常に副詞の前に置かれる。名詞の場合はどちらの位置もOK。

□ **p.m.** × The train will leave at *p.m.6.* (その汽車は午後6時に出ます) 日本語の「午後～」という語順にならって、**p.m.**を数字の前につけるのは誤り。**a.m.**も同様。日本のお店の看板などによくある誤りである。

○ The train will leave at 6 *p.m.*

□ **population**

× How many *populations* are in China?

○ What is the *population* of China?

中国の人口はどのくらいですか。

「人口」にsをつけがち。2つ以上のグループの人口ならよい。

□ **possible** × She is *possible* to come next Saturday. (彼女は来週の土曜日に来ることができる) は誤りで、○ It is *possible* for her to come next Saturday.が正しい。

□ **preposition (前置詞)**

× This river is dangerous to swim. この川は泳ぐのに危険だ。

swim *in* the river だから、前置詞の *in* が必要である。

○ This river is dangerous to swim *in*.

次の例も同様である。前置詞を忘れないこと。

○ I need a knife to cut this bread *with*.

○ Give me paper to write *on*.

<Q>

□ **quite a few**

Quite a few people came to the party.

○かなり多数の人がそのパーティに来た。

×ほんの少数の人がそのパーティに来た。

quite a few も **not a few** も「少なからぬ、かなりの」という意味である。間違えないように。

<R>

□ **rain**

× If *it is rain* tomorrow, I'll stay home. (明日雨なら家にいます) 日本語の

「明日は雨である」につられてこのように書く生徒が非常に多い。動詞の **rain** を使って

○ If *it rains* tomorrow, I'll stay home.と書くのが正しい。同様に

× It was *rain* yesterday.

○ It was *raining* yesterday.

□ **resemble**

belong で学習したように、**resemble** も進行形にはならない。自分の意志ではどうにもならない動詞だからである。

× She *is resembling* her mother very much.

○ She *resembles* her mother very much.

また× He *resembles to* his mother.と前置詞を入れないように気を付けたい。「彼は母親に似ている」という日本語につられるからである。

□ **rise**

× The sun rises *from* the east and sets *to* the west. (太陽は東から昇り、西に沈む) は日本語につられた典型的誤りで、○ The sun rises *in* the east and sets *in* the west.が正しい。

<S>

□ **search** × We are *searching* the lost dog. (行方不明の犬を探している)
 search を他動詞として使った場合には、人や物を求めて場所や人の身体などを探すことで、探し求める物が直接目的語にならないことに注意すべきである。
 ○ We are *searching for* the lost dog.

□ **shopping** × I went to *shopping* yesterday. 昨日買い物に行きました。
 ○ I went *shopping* yesterday.

□ **sign** × Please give me your *sign*. サインをください。
 ○ Please give me your *signature*.
 ○ Please give me your *autograph*. ※有名人の場合

□ **sleep** × I *slept* at 11 last night. 私は昨夜 11 時に寝ました。
 ○ I *went to bed* at 11 last night.
 「寝る」という日本語は曲者でつい **sleep** を使いたくなる。ベッドで寝入る行為は **go to bed**、睡眠する状態は **sleep** と区別して使う。

	寝る		おきる	
	床につく	寝入る	目覚める	起き出す
動作	go to bed	go to sleep fall asleep	wake up	get up
状態	be in bed	sleep be asleep	be awake	be up

日本語では二種類の言葉ですむことを、英語では上のように四種類の言葉で表現する、動作と状態では表現が異なる、の二点が重要である。

□ **something/somebody/somewhere** それぞれの単語の文中での意味に注意。

文の種類	somebody someone	anybody anyone	nobody no one
肯定文	誰か	誰でも	
疑問文	誰か	誰か	
否定文		誰も	誰も～ない

文の種類	something	anything	nothing
肯定文	何か	何でも	
疑問文	何か	何か	
否定文		何も	何も～でない

文の種類	somewhere	anywhere	nowhere
肯定文	どこかへ	どこへでも	
疑問文	どこかへ	どこかへ	
否定文		どこへも	どこへも～でない

□ **spelling** × The *spell* of the word is wrong.
 ○ The *spelling* of the word is wrong.
 その単語のスペルは間違っています。
 日本語の「スペル」は **spelling**。

□ **start** × Our school starts *from* nine. (私たちの学校は 9 時から始まる) は日本語の「～から」につられた誤りで、正しくは ○ Our school starts *at* nine. と at を使う。「9 時に」始

まるからである。

□ steal

× I was stolen my purse.

○ I had my purse stolen.

上のような間違った英語は高校生がよく書くものである。これがなぜ間違いか。当然主語の I は能動態に戻したときには目的語になるはずである。

× Someone stole me my purse. (誰かが私の財布を盗んだ)

この文章は誤りである。従って誤った能動態を前提とした受動態の文も誤りということになる。そこで have を使って「私は「財布を盗まれる」という被害を受けた」のような文章を作ることになるのである。

□ suggest × He suggested me that she should go alone. (彼は私に彼女を 1 人でいかせてはどうかと言った) は誤りで、「人」の前に to が必要です。○ He suggested to me that she should go alone.

<T>

□ teach

× Please teach me the way to the station. (どうか駅へ行く道を教えてください) 道の方向、電話番号、住所など単なる情報を教えるときは、teach を使わず tell を使う。

○ Please tell me the way to the station.

teach を使うのは、①学問や知識を教える場合、②技術ややり方を教える場合である。

□ Teacher

× Excuse me, Teacher Smith / Smith Teacher. すみません、スミス先生。

○ Excuse me, Mr. Smith.

「～先生」の日本語につられて Teacher ～と言いがちであるが、正しくは Mr./Mrs./Ms.～。

□ tell

tell, talk, speak, say の中で「人に～を話す」と間接目的語を取ることでできる動詞は tell だけである。したがって「me や him などの間接目的語があれば tell を選ぶ」と覚えておくこと。

"Do you know that Jean has got a new job?"

"No, she told [× said, spoke, talked] us nothing about it."

次のような違いを押さえておくことが重要です。

say (+ to 人) + 内容 「内容と言う」

tell + 人 (+ 内容) 「人に言う」

talk [speak] (+ about [of] 話題 (+with [to] 人)

「話をする」 (= 行為)

□ thank 日本語では相手に何かしてもらったときに、相手に面倒をかけたことをわびて「すみません」とよく言うが、これにつられて× I'm sorry. という高校生が多い。正しくは Thank you. / Thanks. である。

□ that

× The climate of Japan is milder than Norway.

日本の気候はノルウェーより温暖だ。

○ The climate of Japan is milder than that of Norway.

「日本の気候」と「ノルウェーという国」を比較したことになってしまう。日本語では「ノルウェーよりも」と簡略して表現されているが、厳密には「ノルウェーの気候よりも」という意味だ。比較の対象は the climate of Japan と the climate of Norway である。the climate という語句の繰り返しを避けるために that を使うのである。何度注意してもやってしまうミスである。

□ that

× This is the house in that he lives. これが彼が住んでいる家です。

○ This is the house that he lives in.

that は which と違って、前に前置詞をとることができない。

□ **there** × We go to *there* every week. そこへ毎週行く。
○ We go *there* every week.
there は副詞で前置詞は不要。日本語の「へ」につられないこと。

□ **this** × *this my song*, × *my this song* とは言えず、○ *this song of mine* と言わなければいけない。同様に、× *this Bob's camera* とは言えず、*this camera of Bob's* と言う。

□ **think** × *How do you think about this?* (これについてどう思いますか) と言いがちだが、これは普通の言い方ではなく(間違いとは断言できないが)、○ *What do you think about this?* と言うのが普通。

What do you ~? のとき、後ろの動詞は → **think, mean, call** など

How do you ~? のとき、後ろの動詞は → **like, feel, pronounce** など

後ろの動詞が、what か how かを決めることに注意しましょう。

また、ナディーン先生の観察では、次のような誤りも多いと言う。

× *What do you think is it ~?*

□ **thousand** × *Baseball stars receive thousand of letters every week.*
○ *Baseball stars receive thousands of letters every week.*
野球のスター選手たちは毎週何千通の手紙をもらう。

同様に「何百もの」は *hundreds of ~*、「何百万もの」は *millions of ~*。

× *There are five thousands people in the audience.*

○ *There are five thousand people in the audience.*

聴衆は 5000 人います。

形容詞に使われているときには複数形にしないこと。

□ **together** *together* (一緒に) と *with* (~と一緒に) はよく似ていますが、使い方は全く違いますから注意してください。

Tom and Bill go to school together. トムとビルは一緒に学校へ行きます。

Tom goes to school with Bill. トムはビルと一緒に学校へ行きます。

□ **too** × *The stone was too heavy for me to lift it.* (その石は重すぎて私には持ち上げられなかった) *too...to...* 構文では最後の目的語は不要。文の主語と *to* 不定詞の目的語が一致しているので不要なのである。*The stone was so heavy that I couldn't lift it.* のように *so ...that...* では必要になる。*that* の中は完全な文にしなければいけないのである。

○ *The stone was too heavy for me to lift.*

<U>

□ **understand** *When will your mother be home?* (いつお母さんは戻ってくるの) に対して、× *I don't understand.* と答える生徒がいる。「分かりません」につられているのだが、これでは「あなたの言うことが分からない」になってしまうので、正しくは ○ *I don't know.* と言わなければいけない。

□ **unless** × *I'll call on you unless it doesn't rain tomorrow.*

○ *I'll call on you unless it rains tomorrow.*

明日雨が降らなければ君を訪問しよう。

unless はすでに否定の意味を含んでいる単語なので、*not* を使わぬように。

かつてセンター試験で、*if ...not* と *unless* の使い分けが出題されて高校生を困らせたことがあった。「~しなければ」なら **if...not**、「~でない限り」なら **unless** と覚えておくとよい。

I'll be surprised if Tom doesn't have an accident. He drives too fast.

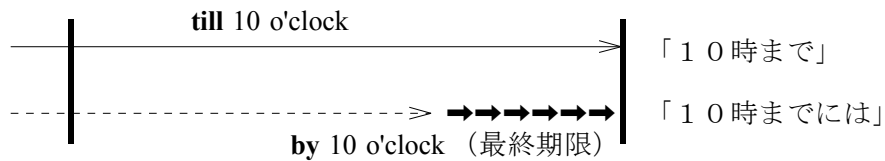
トムが交通事故にあわなければ驚きだ。彼は飛ばしすぎるから。

You had better not keep pets unless you can take care of them.

君はペットの面倒が見られない限り飼うべきでない。

□ **until/till** × *Come home until 10 o'clock.* (10時までに家に帰ってきなさい)

× I slept *by* 10 o'clock. (10時まで眠った)
「ある時間までに」(その時間より遅くなく)という意味の時は **by** で、「ある時間までずっと」(そのときに何かの動作や状態が終わる)という意味は **until** または **till** で表す。



□ **used to** **used to V** (昔はよくVしたものだ)と **be used to V-ing** (Vすることに慣れている)の両者を混同している高校生がたくさんいます。

I *used to* go to school by bus. 私はバスで通学したものでした。

She is *used to* working till late at night. 彼女は残業に慣れている。

be accustomed to V-ingと同じで、この to は前置詞なので、**be used to V-ing**(× to V)とすることにも注意が必要です。

<W>

□ **want** × He *wanted that* he could go to China. (彼は中国へ行きたがっていた)
○ He *wanted to* go to China.

want は that 節をとれない。

□ **war** × World War the Second (第二次世界大戦)
○ World War II ⊕ the が ないことに注意
○ the Second World War

□ **wear** × Before the war, most Japanese women *put on* kimonos. (ほとんどの日本女性は着物を着ていた) **put on** は「～を着る」という動作を表し、**wear** は「～を着ている」という状態を表す。したがって○ Before the war, most Japanese women *wore* kimonos. が正しい。同様に、× Wear a black suit. (黒のスーツを着なさい) も誤りで、Put on a black suit. と言わなければいけない。

□ **We Japanese** × *We Japanese* are generally kind.
○ *The Japanese* (people) are generally kind.

「われわれ日本人」という日本語を直訳して、このように言いがちであるが、不快感を与える表現。「高慢」「排他的」「人種主義」「優越感」を感じさせる。

□ **what/which** *Which* [× *What*] is the boss of the monkeys? (ボス猿はどれですか)
What [× *Which*] nationality is he? (彼の国籍はどこですか)
<どれと、どれと、どれと・・・>と選択肢がはじめからある場合は、そこから選ぶことになるので、**which** を使う。逆に選択肢がない場合には、**what** を使う。What is the length [width, weight, height, price] of ~? も同様の理由。

× *What do you like sports?* スポーツは何がお好きですか。

○ *What sports do you like?*

□ **when/if** Call me *when* Jack comes. ジャックが来たら電話して下さい。
Call me *if* Jack comes. ジャックが来たら電話して下さい。

when はジャックが来ることは分かっているが、いつ来るかは分からないので、到着したら電話してくれ、という意味。**if** はジャックが来ること自体がはっきりせず、条件次第で来ることもあれば来ないことも考えられる、そこで来たならば電話してくれ、という意味である。このような **when** と **if** がよく混同されるのは、どちらも日本語では「～たら」と表すからである。

□ **where** × *Where* is the capital of Australia? (オーストラリアの首都はどこです)

か) 日本語の「どこ」につられたために起こる間違い。

○ *What is the capital of Australia?*

また *where* は「どこへ (に)」という意味なので、前置詞をつけないことも注意が必要だ。

× *Where are you going to?*— *To a bookstore.* どこへ行くの。一本屋まで。

○ *Where are you going?*

もう一つ重要な高校生特有のミスがあります。「～がある」という日本語を見るとすぐに *there is* だと思ってしまうのです。不特定な物や人には *There is...* 構文を用い (*There is a book on the desk.*)、特定な物や人には *be* 動詞を用いる (*My book is on the desk.*) のです。

× *Where is there your office?*

○ *Where is your office?*

「ここはどこですか」を直訳して次のように言う間違いも典型的。

× *Where is here?*

○ *Where am I?*

○ *Where is this?*

□ **whom** × *From who did you get this?* (誰からこれをもたらしましたか) は誤りで、前置詞の後では *whom* を用いて、○ *From whom did you get this?* と言う。

□ **That is why.../ This is because...** **That is why** ~ (こういうわけで~) と **This is because** ~ (これはなぜかという~) の両者が混同されているようです。

原因を示す文 **That is why** **結果を示す文**

They won the game. That is why they looked happy.

彼らは試合に勝った。そういうわけで幸せそうなのだ。

結果を示す文 **This is because** **原因を示す文**

They looked happy. This is because they won the game.

彼らは幸せそうだ。これはなぜかという~と試合に勝ったからだ。

原因と結果が正反対の位置に置かれることに注意して下さい。

□ **will** × *I'll go when he will come.* (彼が来たら僕も出かける) 時を表す副詞節中では未来を表す *will* を使わない (副詞節ルール)。

○ *I'll go when he comes.*

<Y>

□ **year** × *a 13-years-old girl*
○ *a 13-year-old girl*

X-year-old の 3 語で 1 つのユニットとして形容詞になるので、複数形の *s* は不要。類例にも注意。

<i>a 20-kilometer journey</i>	20 キロの道のり
<i>a three-hour-bus journey</i>	3 時間のバスの旅
<i>a five-hour delay</i>	5 時間の遅れ
<i>a five-day business trip</i>	5 日間の出張

□ **Yes/No**

× *"Didn't you buy her anything?"—"No, I did."*

○ *"Didn't you buy her anything?"—"Yes, I did."*

彼女に何か買ってあげなかったのですか—いいえ、買いました

肯定だろうと否定だろうと、やったなら *Yes*、やってないのなら *No*。ただし否定疑問文の答えでは *Yes* (いいえ)、*No* (はい) と日本語が逆転する。